様式３

会　　議　　録

□全部記録　　■要点記録

１　会　議　名	平成 30 年度　第２回ひめじ創生戦略会議
２　開催日時	平成 31 年２月 20 日（水）　15 時 45 分～17 時 00 分
３　開催場所	防災センター３階　第１会議室
４　出席者又は欠席者名	ひめじ創生戦略会議委員 13 人、事務局
５　傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（５人）　傍聴人（０人）
６　議題又は案件及び結論等	１　開　会 ２　議　事 (1)　ひめじ創生戦略アクションプラン平成 30 年度進捗状況 (2)　ひめじ創生戦略アクションプラン平成 31 年度改定版(案) ３　その他 ４　閉　会
７　会議の全部内容又は進行記録	詳細については別紙参照

平成 30 年度　第２回ひめじ創生戦略会議

別紙

	１　開会（１５：４５）
市長	挨拶
事務局	※平成30年度第２回ひめじ創生戦略会議の概要説明
	２　議事（１５：５０）
事務局	【説明】
会長	ご質問、ご意見があれば発言をお願いしたい。
委員	地域価値の再認識と若者への情報発信に関して、私の会社の社員で姫路に縁もゆかりも無かったにも関わらず姫路で不動産を購入した者にその理由を尋ねたところ、１つは交通の便が良いこと、２つ目は不動産の価格が東京や大阪などに比べ低廉なこと、３つ目として教育環境が良いことを挙げていた。 他の地域から姫路に転入してくる方を増やそうとした場合、このような外から来た方に、姫路の魅力やメリットを尋ねてみて、発信していけば説得力があるのではないかと考える。
委員	2015年から始まった播磨圏域連携中枢都市圏ビジョンは、人口減の防波堤になると言う目的があるが、５年目の実績はどうか。また内閣府の中枢中核都市は、連携中枢都市圏構想と似たような取り組みのように見えるが違いをどのように理解したらよいのか。 次に、東京一極集中を解決するために、住民の目線に立って、自治体がどうあるべきかをアクションプランに盛り込んでいくべきではないか。
事務局	播磨圏域連携中枢都市圏ビジョンの実績評価について、人口だけで測ってはいけないと考えている。しかしながら、お尋ねいただいた人口の状況については、社会増減については姫路市及び播磨圏域全体で改善しつつあ

	る。むしろ問題は姫路市内部における地域間格差や、播磨圏域の自治体間の地域格差である。経済的には日本全体では明るい兆しが見えており、播磨圏域においても53事業の進捗により今後成果が見えてくるものと考えている。 ２点目について、連携中枢都市圏構想は各自治体が連携して圏域行政を行っていく新しい形であり、中枢中核都市は、連携中枢都市である姫路市がその機能を強化し、連携市町をうまく引っ張っていくためのものと理解している。 最後のご質問については、総務省の自治体戦略2040構想研究会など、国の検討状況をしっかりと見定めていきたい。
会長	東京一極集中を是正するには、神戸市や姫路市などの中枢中核都市が頑張っていかなければならないということだと理解している。
委員	若者の転出の問題については兵庫県全域も同様と考えるが、若者の地元への定着のためには就職先の確保や、いろいろな働き方ができる地域である必要があると思う。 そこで、若者の創業を促すような、起業家同士の出会い場の提供や、サテライトオフィスなどの環境面の整備について姫路市の検討状況はどうか。 また、人口減少下においても地域の活力を失わないためには交流人口をいかに増やしていくかというのも１つの課題だと考えている。インバウンドを促すために、ラグビーワールドカップなどを始めとする関西におけるスポーツイベントを好機と捉え、何をすることができるか一緒に考えていきたい。
会長	大阪万博の開催される2025年までに様々なイベントが開催されるのでインバウンドをしっかり掴むということが大事。また、外国人の就労者が今後増えていくと予想されるため、優秀な外国人にしっかりと定着してもらえるような施策を展開していくことが重要と考える。
委員	若者に姫路の魅力が伝わっていないということに関して、その多くが大

	学や就職を機に姫路を離れていると考えているが、その世代の子供たちと我々が考える姫路の魅力は異なるのではないだろうか。彼らの意見を沢山聞きつつ政策を考えていけないのではないかと考える。 　次に、子育てと仕事の両立に関連して、少子高齢化が加速度的に進んでいる中で、介護と仕事の両立も問題となっていると思う。 　最後に、新県立病院の医療機能の確保について、播磨では医師が少ないと言われているので、新県立病院を10年後も20年後も勤めたいと思ってもらえるような病院にしていく必要があるのではないか。
会長	新県立病院は駅の近くにできるので、医師も勤務しやすいのではないか。 　また、若い方の意見を聞くことも重要と思う。
委員	ひめじ創生高校生キャラバンについて、すでに実施している事業なのであれば、どのような意見が高校生から出て、それをどのように今後に活かしていこうとしているのか教えて欲しい。 　次に、女性の就労支援について、企業に対してどのようなアプローチを実施するのか教えて欲しい。 　最後に保育園の待機児童について現在の状況を教えて欲しい。
事務局	ひめじ創生高校生キャラバンについては、今年の３月から事業を開始する予定。内容は、地元のアイドルグループを起用したＰＲ動画を用いて、姫路の魅力を高校生の目線で柔らかく伝えていくこととしている。 　女性の就労支援については、姫路はオフィス系の企業が少ないため、来年度からオフィス系企業の誘致を積極的に進めていきたいと考えている。また、姫路経営者協会にもご協力していただき、女性と企業とのマッチングを行うなど、効果の高いものについては積極的に進めていきたいと考えている。 　待機児童については、今年10月から幼児教育・保育の無償化が始まるため、今まで以上に保育ニーズが高まるものと考えており、人材の確保とハード面の整備について、予算を確保して来年度以降取り組んでいこうとしている。

委員	若い方の就労に関して、姫路経営者協会では、高校生らによる播磨の魅力づくりの提案として、高校生達が播磨の魅力をどのように考えているのか昨年意見を聞いた。高校生たちは、自分たちの夢を叶えるために東京に出ていきたいと考えている一方で、地元で自分の力を十分に発揮できるところがあれば地元に戻ってきたいと言う意見もあった。さらに、自分たちの出した意見が市政に取り入れられるのであれば、どんどん意見を出していきたいと言う声も聞かれた。 また、市立高校では、高校生と企業がコラボレーションをして、企業の魅力を学生目線で伝えていく取り組みをしており、企業側からは若い方の意見が新鮮で参考になるという声もある。若い方の意見を聞き、会社側としても参画していける機会があれば協力していきたい。 また、中播磨県民センターに協力してもらい、播磨の93社を紹介する冊子を作り、西播磨の高校生に配布した。非常に好評で、当初の5000部に加え1500部増刷して配布したところである。
副会長	平成29年度の待機児童185人と言うのはやはり多いと思う。少子化の改善のことを考えた場合、待機児童の解消が大変重要な課題であると考えている。 また、シルバー人材センターの登録者数について、60歳以上の方は増加傾向にあると思うが減少している理由はなぜか。
事務局	シルバー人材センターについて、高齢者雇用安定法により企業で65歳まで継続雇用が可能となったことにより、退職する65歳までの間に徐々に就労意欲が低減していく方が多いと聞いている。また、シルバー人材センターの仕事は軽作業が多く、本格的に働きたい方にとっては金銭的にも物足りないものとなっている。
委員	待機児童については、最近の若いお母さんの中には育児能力が低い方もおり、保育所が基礎的なことから指導していかないといけない。現場は大変なことをやっているが、保護者は保育所に任せきりで育児能力が向上しないと言う悪循環になっている。保護者に対する育児教育を大切にして欲しい。この問題を解決しないと少子化対策につながらないと思う。

	待機児童問題もそうだが、子育て支援に関してもっともっといろいろなプロジェクトができないかと思う。保育士の養成に関しても、保育士養成校が、より優遇措置の多い神戸方面に移転する傾向にあるため、姫路市でも保育士の養成をもっと支えて欲しい。
会長	小学校や中学校の家庭科の授業で育児については教えていないのか。
委員	もっと中学校や高校で教える必要があると思う。
委員	人口減少問題に関して、姫路市の昼夜間人口は１を少しだけ上回っている。中枢中核都市として機能を強化していくにあたり、昼夜間人口は１を切らない方法を真剣に考えていかないといけない。また、従来姫路市内で買い物をしていた人たちが、神戸や大阪、また加西市などの郊外の大型スーパーに流れている状況もある。 若い方の雇用の場に関しては、全体の有効求人倍率は高いが、事務系は0.8と低くなっている。つまり求人よりも求職者の方が多い状況となっており、若い女性が事務系に多く求職しているものと考えている。さらに廃業する企業も多く、雇用の場が少なくなっている。地元で働きたいと思っても、就職先の企業がないという状況で課題が多い。
委員	シルバー人材センターに関しては、仕事の有無にかかわらず年会費を支払わないといけないため、これが負担となって加入者の減少につながっていると思う。 子育て支援に関しては、政府では保育料を無料にするなど経済的な負担を軽減する政策を行うようであるが、メリットだけではないと思われる。きちんと目的を持って仕事をしている方は別にして、特段の目的もなく世の流れに従ってパートに出て働く方が増えると、むしろ子育てにゆっくりと向き合う時間が奪われるのではないか。お金を出せばいいというものではないと思う。 また、地域の魅力については、姫路市には、ディズニーランドで使われている鎖を作っているような魅力的な企業もあり、ぜひこのような企業を若者たちへ紹介してほしい。大学は市外に出て行くにせよ、いつかは故郷

	に帰ってきたいと思うような子供たちを育てて欲しいと思う。
会長	地元に帰ってきたいと思うような子供時代を姫路で過ごさせてあげて欲しい。
委員	私も初めての育児で悩んだ時期があり胸を痛めたことがある。悩んでいた時は、どうして学校で育児について教えてくれなかったんだろうと思った。しかし、本来学ぶと言う事は自分から主体的に行うものであることから、自ら学んでいこうという子供たちをこれから育てていってほしい。
委員	地域創生にあたって、女性の視点や播磨の中の姫路という視点が大切だと思う。ひめじ創生戦略において、播磨の雄として播磨をまとめていこうとする政策がポイント。播磨の結束力や、生活圏である播磨を守るために、格子状に伸びる播但線や姫新線、山陽本線、また山陽電気鉄道などの利用客がきっちりと伸びていくような政策をやっていく必要がある。 また、播磨という枠でふるさと意識を醸成していく土壌を中長期的に形成していく必要がある。 次に、女性の視点に関して、地元の女性、域外から来た女性、県外から来た女性と言うマトリックスで、若い女性の思考回路を分析していく必要がある。一説に、オフィス志向というのが言われており、神戸でも三宮に人気が集まっている。その反対として工場の多い播磨に就職しないということになる。 私も娘２人がそれぞれ神戸市とたつの市の企業に就職したが、彼女ら若い女性の思考回路の分析は県と市の共通の課題であると考えている。
会長	これから、Society5.0という情報化の社会が到来する。例えば女性の就労の場として、家の中でICTを活用して働くと言う選択肢も出てくる。また大学をうまく使っていただき、いろんな切り口からご提案をいただければと思う。昨日も、姫路市の大学発まちづくり研究助成金の発表もあったが、いろいろと参考になる発表もあり、姫路市にとっても大学にとっても良い取り組みだと思う。

市長	本日は貴重な意見が多かった。家族、子育て、教育、そして雇用などに注力し、姫路に人が帰ってくるような魅力的なまちを作っていかなければならない。 このうち子育てに関しては、安易な子育て支援競争に陥ることなく、知恵を出して取り組んでいかなければならない。３世代同居なども本気で考えていかなければならない。また退職した高齢の保育士経験者を保育士として任用することで、お母さん教育までやっていただけるのではないか。 また、魅力ある姫路の教育の推進にあたり、お母さん教育や保育士の養成、アクティブラーニングの推進などの取り組みや、大学を核に据えた取り組みを進めていかなければならないと思う。 さらに、姫路市内の企業の魅力発信については現状では非常に弱いと思う。高校生の目線で企業の魅力をしっかりと伝えていくような取り組みが重要と考えている。 **３　その他** ※連絡事項 **４　閉会（１７：００）**